

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「未来の世代への選択」

— 神様から与えられた「いのち」を生きるために —

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「あなたは命を選びなさい。そうすれば、あなたもあなたの子孫も生きる。」(申命記 30 : 19b、聖書協会共同訳)

9月1日にカンタベリー大主教・ローマ教皇・東方正教会エキュメニカル総主教の連名で、「被造物保護のための共同メッセージ」(A Joint Message for the Protection of Creation)が発表されました(全文日本語訳は13頁に掲載)。カトリック教会では9月1日を「被造物を大切に作る世界祈願日」、10月4日のアシジのフランシスの小祝日までを「すべてのいのちを守るための月間」・「被造物の季節(Season of Creation)」と定めています。

3教会による気候変動に関する共同メッセージは初めてのことで、今年11月にスコットランド・グラスゴーで開催される国連気候変動会議(COP26)を前に、大切な視点を私たちに伝えてくれます。私たち日本聖公会も6月の地球環境デーに近い主日を「地球環境のために祈る主日」とし、その一週間を「原発のない世界を求める週間」と定め、「いのちと核は共存できない」こと、脱炭素の取り組みとしてパワーシフトや省エネを呼びかける等の取り組みを始めています。

共同メッセージでは、「将来の世代にどのような世界を残したいのか」を決断する時であること、「すべての人に、地球と貧しい人々の叫びに耳を傾け、自分の行動を吟味し、神が与えられた地球のために意味のある犠牲を誓う努力をすること」が呼びかけられています。そのために、あらゆる壁を乗り越えながら、環境破壊や貧困への持続可能な取り組みに向け、世界的な協力の重要性を強調し、私たち自身が意識転換していく必要性が訴えられています。そして、「誰もが幸せになれる人生のビジョンを共有する」ために、「命を選択するということは、犠牲を払い、自制心を働かせること」「誰でも、どこにいても、私たち皆が…役割を果たすことができる」「神の被造物への配慮は、献身的な応答を必要とする霊的な使命です」と結ばれています。

2030年までの世界的な取り組みである「SDGs(持続可能な開発目標・Sustainable Development Goals)」も、この視点が大切にされています。そこで取り上げられているどの課題も、自然

口会議・プログラム等予定

(2021年9月25日以降・前回は掲載分)

9月

- 13日(月) ハラスメント防止・対策担当者会議 [Web]
- 16日(木) 各教区財政担当者連絡協議会プレ会議 [Web]
- 16日(木) 宣教協議会実行委員会 [Web]
- 21日(火) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議 [Web]
- 21日(火) セーフ・チャーチ WG 会議 [Web]
- 22日(水) 日韓協働委員会 [Web]
- 27日(月) セーフ・チャーチ WG 会議 [Web]
- 27日(月) ハラスメント防止・対策担当者会議 [Web]
- 28日(火) 管区共通聖職試験委員会 [Web]
- 29日(水) 教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会 + [Web]
- 30日(木) 祈祷書改正委員会 [Web]

10月

- 1日(金) 宣教協議会実行委員会 [Web]
- 4日(月) 「原発はやめようよ」オンラインカフェ [Web]
- 4日(月) 正義と平和・原発問題プロジェクト [Web]
- 7日(木) 主事会議 [Web]
- 7日(木) ・8日(金) 各教区宣教担当者の集い [Web]
- 8日(金) 日韓協働合同会議 [Web]
- 12日(火) ~14日(木) 主教会[北海道]
- 18日(月) セーフ・チャーチ WG 会議 [Web]
- 21日(木) 収益事業委員会 [Web]
- 21日(木) セーフ・チャーチ WG 会議 [Web]
- 25日(月) 常議員会 [+Web]
- 27日(水) セーフ・チャーチ WG 会議 [Web]

(次頁へ続く)

※管区事務所はしばらくの間、就業時間の短縮と隔日出勤を実施しています。(平日・水・金は10:00-16:00出勤、火・木は在宅勤務)。在宅勤務でもメールの送受信は可能です。

を含む「いのちの尊厳」にかかわること、私たち一人ひとりが深く捉え、共に手を携えて解決していかなければならない課題です。一人ひとりの優しさや少しの我慢・節約によって、すべての人々が等しく幸せに暮らせる世界を、私たちは描いてゆきたいと願います。誰を、どのように隣人として愛するのか、地域の教会(Parish Church)として、教会が建てられている地域全体をケアするという視点で、その地域ですでに様々な課題に取り組んでいる方々とのネットワークを広げ、協働していくことが求められていると思います。

私たちにキリスト者には、一人ひとりが神さまから与えられたいのちを生きる大切な存在であり、その生活の質を幸せなものへと導く努力をする責任が与えられています。自分たちだけの豊かさを求めてしまいがちな私たち、便利さを求めてエネルギーを消費し続け、大量生産・大量消費を繰り返してしまう私たちの心を、悔い改める時が来ているのではないのでしょうか。コロナ危機のただ中であって、「自己責任」や「ソーシャルディスタンス」という言葉によって利己主義に陥り、広い視野に立って物事を見つめることを忘れてしまいそうになるのではなく、他者を自分のように愛し仕える精神に立ち返り、方向転換していきましょう。

(前頁より)

29日(金) 日韓協働委員会 [Web]

<関係諸団体会議・他>

9月17日(金) NCC 役員会 [Web]

24日(金) 生野センター30周年
記念事業委員会 [Web]28日(火) ACT ジャパンフォーラム
運営委員会 [Web]

10月5日(火) NCC 役員会 [Web]

19日(火) NCC 役員会・常議員会 [早
稲田]19日(火) ~ 22日(金) アジア宗教
者平和会議大会 [Web]20日(水)・21日(木) 日本キリスト
教連合会法人事務・会計
研修会 [Web]**□各教区****東北**

- ・第105(定期) 教区会 11月23日(火) 9時
~17時 盛岡聖公会礼拝堂・アートホテル盛
岡

東京

- ・聖職接手式 10月2日(聖霊降臨後第18主日
後土曜日) 14時 日本聖公会東京教区聖アン
デレ主教座聖堂 司式: 主教 フランシスコ・
ザビエル高橋宏幸 説教: 司祭 パルナバ関
正勝 式典長: 司祭 セラピム高橋 顕 執事
接手志願者: 聖職候補生 ヤコブ荻原 充

中部

- ・第93(定期) 教区会 11月23日(火) 10時
~16時 中部教区センター2階集会室(オン
ラインによる分散開催調整中)

九州

- ・第116(臨時) 教区会 9月4日(土) 8時
半~12時半 会場を指定し、Zoomによるオ
ンライン開催。開催場所は追って連絡。

□管区**祈祷書改正委員会**

- ・祈祷書改正委員会は、年3回程ニュースレ

ターの発行を決定。創刊号は9月25日発行。
各教会に2部、教区事務所(ストックと各教
区礼拝委員会用)に20部を『管区事務所だ
より』に同封し送付。別途、複数部入手希望
者にも対応可能(個別対応)。

***お詫びと訂正**

聖餐式聖書日課(B年)(11月1日諸聖徒日の
福音書)以下の通り訂正いたします。
冊子版、聖公会手帳版の「聖餐式聖書日課・
B年」11月1日 諸聖徒日の福音書
(誤) マタ5 → (正) マタ5:1-12
お手元の日課表に追記をお願いいたします。

□関係諸団体**聖公会生野センター**

- ・聖公会生野センター30周年を迎えて 連続
セミナーのご案内
第1回9月24日(金) 19時 【戦前の日韓教
会交流について】 オンライン配信のみ
講師: 司祭 井田 泉(京都教区・退職)
第2回11月26日(金) 19時 【生野地域の
教会の働きから振り返る=エキュメニカル
運動と聖公会】 講師: 牧師 李 清一(イ

チョンイル 在日大韓基督教会 KCC会館名誉館長)

第3回 2022年1月28日(金)19時【聖公会生野センター活動初期(1992年)を振り返る】講師:司祭 宮嶋 眞(京都教区・退職)

第4回 2022年3月18日(金)19時【日韓聖公会正式交流から見てきたもの=出会い、懺悔、和解、協働】講師:司祭 前田良彦(東京教区・退職)

* 会場はすべて大阪聖愛教会(オンラインでも配信)です。新型コロナの感染状況によってはオンラインのみの配信もありえます。

オンライン参加希望者は次のアドレスに申し込んでください。

古澤秀利司祭: jfhide@icloud.com



†逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

主教 ヨハネ竹田 眞(東京教区・退職 主教 および日本聖公会第15代首座主教) 2021年9月13日(月) 逝去 (91歳)

司祭 ヨシユア前田次郎(神戸教区・退職) 2021年9月20日(月) 逝去 (89歳)

《人事》

東北

主教 ヨハネ吉田雅人 2021年8月19日付 室根聖ナタナエル教会管理牧師の任を解く。
司祭 ステパノ越山哲也 2021年8月20日付 室根聖ナタナエル教会管理牧師に任命する。

東京

司祭 スティーブン・アンドリュー・クロフツ 2021年10月31日付 阿佐ヶ谷聖ペテロ教会牧師の任を解く。
英国聖公会カンタベリー教区への移籍を認める。
主教 フランシスコ・ザビエル高橋宏幸 2021年11月1日付 阿佐ヶ谷聖ペテロ教会管理牧師に任命する。

京都

司祭 ヨハネ井田 泉(退) 2021年8月31日付 聖アグネス教会国際会衆担当の委嘱を解く。
司祭 スコット マーレー 2021年8月31日付 主教座聖堂付を解く。
2021年9月1日付 聖アグネス教会国際会衆担当に任命する。

<信徒奉事者認可・分餐奉仕許可>

(奈良基督教会) 2021年9月1日付 ダビデ松本 誠、フランシス松矢孔二(任期1年)

神戸

<信徒奉事者認可>

(徳山聖マリア教会) 2021年4月1日付 テレサ寺田弘枝(任期1年)

(下関聖フランシス・ザビエル教会) 2021年6月1日付 マグダラのマリア南野あや子(任期1年)

九州

司祭 バルナ牛島幹夫 2021年8月31日付 福岡聖パウロ教会牧師および宗像聖パウロ教会牧師の任を解く。
2021年9月1日付 主教座聖堂付を命じる。
司祭 ミカエル李 相寅 2021年9月1日付 福岡聖パウロ教会管理牧師に任命する。
主教 ルカ武藤謙一 2021年9月1日付 宗像聖パウロ教会管理牧師に任命する。

《教会・施設》

聖慰主教会（北関東）

2021年8月5日付 聖慰主教会宛郵便物は草津聖バルナバ教会気付としてご郵送ください。（新型コロナウイルス感染拡大のため）

清水聖ヤコブ教会（横浜） 電話・FAX番号の変更 054-295-6205（FAXのみに変更）

静岡聖ペテロ教会（横浜） 電話・FAX番号の変更 054-246-8013（TELのみに変更）

2021年長崎原爆記念礼拝を開催して

「平和の同心円」を広げていく —み言葉に聴き、実行する—

長崎聖三一教会 牧師 司祭 マルコ 柴本孝夫

被爆76年の今年は、年頭1月22日に批准国が50カ国に達したことにより核兵器禁止条約が発効された記念すべき年となりました。しかし世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大し、加えて今夏は、記録的猛暑と大雨等の災害に見舞われ、果たして記念礼拝を行なえるか直前まで悩まされました。

ところが当日は奇跡的に天候も持ち直し、こじんまりではありましたが、原爆投下時刻11時2分の黙祷を含む聖餐式を、武藤主教司式のもと行なうことができました。テーマは「死の同心円から平和の同心円へ」。テーマ聖句はコロサイ書3章15節「キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい」の言葉を掲げました。

特筆すべきことは、事前に京都、大阪を始めとする各教区の教会、婦人会、教役者、信徒そして関係学校から例年より多くの折鶴、色紙、メッセージなど頂き大変励まされました。さらに7月初めにプール学院高校の皆さんが修学旅行で来訪し、共に平和への祈りを捧げてくださったこともよき備えの時となりました。

また今回初めて長崎市近郊のプロテスタント教会・団体による長崎キリスト教協議会が礼拝に合流。オンラインでの礼拝配信に協力してくださいました。そしてこの映像を観つつ各地で共に祈ってくださった方がたくさんおられました。さ



らには、式文掲載の被爆者証言は、信徒のつながりから94歳の築城昭平さんにお寄せいただきました。これら神さまが備えてくださった数々の恵みに感謝いたします。

今回私は説教者となり、皆さまへお話したのですが、準備に際してYouTubeの『原子爆弾の運搬から長崎市に投下までの映像』を繰り返し観ました。

ショックだったのは、投下直後に立ち上る巨大なキノコ雲もそうですが、むしろ、前日に原爆を準備する兵士たちの姿でした。原爆を倉庫から運び出し、仕上げのペンキ塗り作業を行なっている。その後B29爆撃機に装填。その時の兵士たちは上半身裸また短パンとラフな格好で淡々と作業を進めていました。

戦争の準備は平然とした日常の中で淡々と進められていく。一見ごく普通の若者が作業を任せられ、当然のようにこなしていく。するとその先に

恐ろしい出来事が起こされていく…。果たしてこの兵士たちは自らが準備した一発の爆弾が、この後じつに73,884人もの命を消滅させるということを想像できていただろうか、など考えさせられました。

兵士が聴く命令の言葉と、私たちが折々に聴く神さまからの言葉。人生の中でどんな言葉を聴くのか、これは極めて重要で、生き方の分岐点ともなります。

長崎原爆記念礼拝に参加して

九州教区 聖職候補生
ダビデ 佐藤 充

8月9日、長崎聖三一教会で行なわれた「被爆76年長崎原爆記念礼拝」に参加しました。台風接近により、前日まで天気が心配されましたが、台風一過の晴天に恵まれ、原爆投下時の空を思い浮かべました。武藤謙一主教の司式の中、柴本孝夫司祭の福音書朗読が終わると、原爆投下時刻までしばらく黙祷をささげました。11時2分になると、近くの港に停泊している船が一斉に汽笛を鳴らしましたが、コロナ禍で外国籍のクルーズ船が少ない影響か、例年に比べて音は小さく感じました。礼拝後、被爆者である築城昭平氏の証言が読み上げられました。ご本人はご高齢という事で、来場は叶いませんでしたが、文面からも、76年前の惨劇が、ご自身の中に鮮明に残っていることが伺い知れました。

私は、現在学んでいるウイリアムス神学館が夏休みに入り、教区実習を九州教区内の数教会で行なわせて頂いており、この週は長崎での実習中でした。長崎に住む方々が、

「愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。また、キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい」。このすべての人に示されたみ言葉に、私たちは聴き入り、実行していく者となっていきたい。これこそが「平和の同心円」を広げていくことになると、あらためて感じさせられた今年の記念礼拝でした。

様々な形で原爆の廃絶を考え、平和を訴えておられる姿を目の当たりにしました。日本では、最近戦争は過去の出来事のように思われてしまう事が多いですが、決して大昔の事ではなく、今でも何かの歯車が狂うと平和が失われかねない事だと思われました。

コロナ禍という事で、制約された中での集まりでしたが、大変意義深い礼拝でした。特に今回は、長崎キリスト教協議会に所属する他教派の方々も一緒に、ネット中継等を通して礼拝をささげる事ができたことにも大きな意味があったと思います。教団・教派の枠を超えて一致し、協力する働きは、まさに身近な所から平和を作るための第一歩だと感じました。今は多くの人が一堂に会したり、遠方へ行くことは難しい状況ですが、だからこそ、家族や職場、学校、教会内、教区内など身近なところから平和を作っていくことが大切なのではないかと考えました。



特集 / 新任「人権」研修会

新任人権研修会が目指すもの

人権問題担当主教 イグナシオ 入江 修

昨年10月末の第65(定期)総会の後、前任の武藤謙一主教より人権担当の任を引き継ぎ、今回、初めて新任人権研修会(以下、新任研)に参加しました。

昨年来の新型コロナ・ウイルス感染の影響で、昨年は実施そのものが見送られました。今年も、当初は5月下旬に、横浜の寿町で配食サービスのお手伝いをさせていただき現場研修を含めて、寿町の現状とそこにある問題—それは、実は寿町の問題ではなく、私たちがいる社会全体が抱えている問題なのですが—について学ぶ計画でしたが、ウイルス感染の拡大にあたり、今回、現場研修は来年に機を譲り、それ以外の講話をお聞きすることをZoomによって実施しました。

日本基督教団神奈川教区寿地区センターの三森妃佐子牧師には、5月の研修計画の時から、今回のZoom研修までいろいろとお世話いただき、また私たちの研修のために現場からの貴重なお話と問題提起をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

さて、そもそもこの新任研がスタートしたのは、1983年5月開催の第38(定期)総会における一人の総会代議員による部落差別発言に遡ります。しかしそれは、単に一人の発言者自身の問題にとどまらず、その発言を受けた議場、言い換えますと日本聖公会全体の問題として、そこに差別の体質を認め、日本聖公会が抱えている問題を問題として受け止め、そこからの悔い改めと共に差別の根を断ってゆくための新たな出発(出エジプト)でした。その旅はまだ途上にあり、今なお約束の地を目指して歩み続けているところです。

発言者が抱え持っていた差別意識は、単に発言者の問題とすることで、個人の告白と悔い改め、そして赦罪によって解決すべきものではなく、それは日本聖公会が抱えている問題と受け

止めるべきもの、つまりそこに連なる私たち一人ひとりが自らの抱えている問題として受け止め、そこから問題をしっかりと分析し、差別をなくしてゆくための具体的な歩みを踏み出してゆくことでした。

それは決して平坦な道のりではありませんでしたし、これからも同様でありましょう。しかし、そこに神さまのみ心があり、そのことを通してみ栄えが現されてゆくことを信じて、私たちはその歩みを進めてゆかなければなりません。

その一つが、神学校を出て教会の現場に派遣されたばかりの新任者の人権研修でした。教会はキリストを頭とし、その体であるといわれていますが、しかし、その教会が人間の共同体である以上、なお未完成であり、その完成に向かっての歩みを続けてゆかねばなりません。ですから、教会の中に差別はないとするのではなく、むしろ差別という現実を直視し、問題を問題として受け止めていくことによる以外には、真の解決に至る道はないのだと思います。

総会での差別発言を発言者個人の問題として日本聖公会から切り離すならば、それは私たちが他人事として、つまり傍観者の位置に立ち続け、日本聖公会が、そしてそこに連なる私たち一人ひとりが、自ら抱えている問題に蓋をしてしまうことになってしまいます。

しかし、それを自らの問題として捉え、何が問題で、それとどう向き合い、どのようにして解決に向かおうとしていくのか、そこに対峙することは化膿したところを切開して膿を出して消毒し、治療するように痛みを伴いますが、そこに、これから日本聖公会の教役者として歩んで行こうとしている人たちが人権に関わる研修をしてゆく意義があるのだと思います。

今回は、昨年実施できなかったことを踏まえ

てZoomでの1日研修となりましたが、来年はコロナの終息を願い、ぜひ現場での研修を含めた1泊2日の研修が実施できることを願っております。

特集 / 新任「人権」研修会

2021年度新任「人権」研修会を実施して

管区人権問題担当者 スーザン 難波美智子

2021年度新任「人権」研修会が8月17日(火)にオンラインで開催されました。

昨年は新型コロナウイルスが猛威を振るい、この研修会を開催することができませんでした。2004年から毎年開催されてきたこの研修会は、昨年度が延期となったため今年で17回目になります。新しく聖職候補生になられた方々、これまでにこの研修会を受講されていない聖職の方々を対象に「人権」について学び、ともに考え、話し合うことはとても大切なことであり、さらに2つの神学校の卒業生が交流できる場にもなり、有意義な研修会であると思います。

今回は北海道教区、東京教区、九州教区、沖縄教区から執事1名、聖職候補生5名と管区人権問題担当主教の入江修主教、管区人権問題担当者5名が参加しました。

午前10時からオリエンテーション、自己紹介、続いて入江主教による第1部「総会における差別発言についての学び」がありました。1983年の第38(定期)総会における「部落差別発言」について、2019年に再発行された「総括報告書」に基づいた丁寧な解説がありました。この差別発言は発言者だけの問題ではなく日本聖公会全体の差別意識の問題であり、この差別発言問題がきっかけとなって管区、各教区に人権問題担当者がおかれ、人権問題についての研修会などが開催されるようになりました。この学びは新任研修で毎回勉強するものです。

午後からは日本キリスト教団神奈川教区寿地区センターの三森妃佐子牧師による講演「コトブキからの叫びー私も人間だ、人間扱いしてほしいー」がありました。本来ならフィールドワークを行

なうのですが、今回はコロナ禍のため講演と質疑応答になってしまいました。

寿町は東京の山谷、大阪の釜ヶ崎と並んで日本三大寄せ場の一つです。寄せ場とは、日本の高度経済成長期を支えた日雇い労働者たちが早朝に仕事を探す所で、簡易宿泊所等もあります。

そして寿町は横浜港の港湾荷役として働く日雇い労働者たちによって形成され、三森牧師は長年この町で炊き出し活動をはじめ、相談、見守りなどの様々な活動をされながら彼らを支えてこられました。

しかし最近になって日雇い労働者の街であった寿町が「高齢者の街・福祉ニーズの高い街」になってきたそうです。バブル崩壊などによって仕事減少、労働者の高齢化が進んで雇用先の確保が困難になり、さらに核家族化が進んで、一人で生活することが困難な高齢者、要介護者が簡易宿泊所に定住するケースが増加し、さらに昼の間だけ炊き出しやアルコール依存症の自助グループ等に参加するため外部から120～130名の人の出入りがあるそうです。

この神奈川教区寿地区センターでは、その他にも野宿者訪問、また地域の高齢者支援としてふれあいホームや老人クラブの昼食会に参加したり、地域で暮らす障がい者福祉作業所やアルコール依存症の方々のデイケアセンターの支援活動をされています。また最近には行政による野宿者排除、青少年による野宿者襲撃事件などがあり、「神から与えられた命、誰も不幸になってはいけない」と夜回りを続け、ホームレス問題の学習会等を開催されています。

日本基督教団神奈川教区が新しい宣教プロ

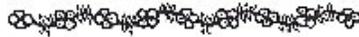
ジェクトとして寿地区問題への本格的な取り組みを始められたのは1983年だったそうです。三森牧師は「どうしたら差別がなくなるのか」と考え続け、そして現場に入るとそこでいろいろな学びがあったと話しておられました。

講演の中で心に響く話がたくさんありましたが、私には、

- ・平和とは命ある者一人一人が人間として生きられること

・聖書の言葉を口で語るのではなく生きる姿勢をもって語る「存在が語る言葉」
これらのフレーズが心に残りました。
寿町をフィールドワークできなかったことがとても残念です。

講演の後質疑応答があり、続いて全体の振り返りの時間を持ち、出席者が感じたことを話し合いました。



新任「人権」研修会に参加して

<学び得たいいくつかのこと>

北海道教区 聖職候補生
エリサベト 三浦千晴

8月17日(火) 10時から16時30分まで行なわれた、新任「人権」研修会に参加させていただきました。今回の研修会はコロナ禍の影響により、残念ながらズームによる開催となりましたが、聖公会神学院を一年早く卒業していかれた先輩たちと、たとえ画面越しにでも久しぶりに再会し、ご一緒できたことを大変嬉しく思いました。

午前中は、「日本聖公会第38(定期)総会における部落差別発言(中川差別発言)」についてのご講義を、入江主教様より賜り、その後参加者全員による質疑応答の時間を持ちました。2019年に発行された総括報告書を事前学習のテキストとして指定されておりましたので、ある程度の予備知識を持って参加させていただいておりましたが、入江主教様の大変わかりやすいお話とレジメに助けられ、このテーマの内容、問題点をよく理解することができたように思います。問題となった1983年当時の発言を、今ジェンダーの視点から読み返してみると、今まであまり指摘されてこなかった問題もあるように思いました。日本聖公会の最高決議機関である総会での発言は、その当時の日本聖公会全体の様子を映し

出す鏡のように思われます。そこに映し出される一つ一つの課題を「私の問題ではない」と切り離さずに、問題を意識化する必要があることを痛感いたしました。こと差別問題に関しては、風化することなく、繰り返し振り返る機会、時間を持つこと。また今の自分自身でその問題を考え、祈ることが重要であることに気づきました。

午後からは、日本キリスト教団神奈川教区寿地区センター副主事の三森妃佐子牧師より『コトブキからの叫び「わたしも人間だ、人間扱いして欲しい」』と題して、師の長年にわたる横浜市中区寿町寿地区でのお働きについてお話を伺いました。

寿地区の現状は、「日雇い労働者の街」から「福祉ニーズの高い街」へと移行しているというお話に、そこに住む方々の状況がより複雑化していることを垣間見る思いがいたしました。最近では、コロナ禍の影響により仕事、住居を失った人々が多く見られるようになったという厳しいご報告もありました。そういった現状に、行政、医療、福祉を担う人々と連携しながら、そこに暮らす人々との全人的な関わりを1980年代より絶やすことなく続けてこられた師のお働きに、心から敬意を表します。「先生は、様々な活動をされる折に、ご自分が牧師であることを表明なさいますか?」という私の愚問に対し、「存在が語る言葉がある。この言葉が福音の受肉となる」とお答え下さり、現場を持ち、現場に赴き考え、祈ることの大切さを学ばせていただきました。是

非一度、寿町へ赴き、寿地区センターのお働きの実際に参加させていただきたいという思いを強く持ちました。

どこに立つのかという問いかけ

<新任「人権」研修会に参加して>

東京教区 聖職候補生
スザンナ 中村真希

感染症拡大のために延期になっていた新任人権研修会が、2年ぶりにようやくオンラインで実現し、貴重な学びの機会を得ることができました。

前半は、入江主教による第38（定期）総会における部落差別発言問題について、後半は、横浜で野宿生活者支援を行っている三森妃佐子先生に現場からのお話を伺いました。部落差別の問題は天皇制と、野宿者の問題は経済や教育の格差といった社会システムに根差した問題であり、私たちの差別意識は無意識や「当然」といったレベルで刷り込まれていることも多く、不当な虐げや痛みへの無関心・無自覚となっています。研修全体を通して、社会的な背景・問題に向け、学ぶことももちろんのこと、「シャカイモンダイ」と記号化せずに、名前のある一人一人の人間の命の問題として向き合うことの大切さを学びました。

また、この部落差別発言が当時の議場で何もなかったように扱われそうになったことは、リアリティを持って感じられました。雰囲気や進行を妨げたくない、関わらないことにしたい、そのような心理は私にも心当たりがあることです。問題を問題とし、不当な痛みにNOと声を上げる勇氣と努力が不可欠であるということを改めて考えさせられました。

研修中、教会の中で、差別や人権の問題を取り上げることに抵抗を示す人もいるという話にな

りました。どこに立ち、だれと共に声を上げるのかということが私たちの信仰にとって切実な問いであるという理解がより深められる必要があるのでしょうか。当日の資料に掲載されている竹田眞主教の文章に「キリスト者の差別克服や被差別者の人権回復の運動は・・・キリストの十字架の記念の中で自らを捧げる行為として実践するものでなければ意味を失うこととなります」とあります。まさしく人の呻きを知り、差別・抑圧から解放を求められる神に信頼する私たち教会、そしてキリスト者一人一人の信仰の根幹を問うものであると思います。この世界に派遣され、神のミッションを担うキリスト者の一人として、命と向き合う者であり続けたいと願います。

「学び、向き合い、考え続ける事」

<新任「人権」研修会に参加して>

沖縄教区 聖職候補生
ウリエル 仲宗根 遼

8月17日にオンラインにて開かれた「新任人権研修会」参加して、日本聖公会で過去に起こってしまった過ちや、その間違いを忘れるのではなく真摯に向き合い、二度と同じ問題は起こしてはならないという強い意志、「差別」はあってはならない、キリスト者として様々な理由で弱い立場に置かれた人々の隣人に、どのようになっていくか考えていくと言う、当たり前ですがとても大切な事に改めて触れ、私自身も今後牧会の現場で働いていく者として、イエス様に従うクリスチャンとして大事な事を考えるきっかけとなりました。

今回の研修の主題となりました「総会における差別発言問題」での部落出身の方への差別発言と寿町での日雇い労働者の方、ホームレスの方の置かれた不当な現状の二つの事に対して、どちらも本来責められるような言われのない事で責められ、差別され、苦しめられている人がこの

地球上にいる事実に関心が痛む思いをしました。これまでも「差別」や「人権」については様々な所で学び、知る機会もありましたが、何度学んでも学び足りる事はなく、学ぶ度に知らなかった事は次々と出てきます。「人権」・「差別」と言う問題は私の想像している以上に根が深く、何度か学んだからと言って、それで終わらせず学び続けたいといけなく、それほど大きな問題であると痛感しました。

また差別をする側の人は特別差別意識の強い人ではなく、どんな人でも、誰でも差別をする側に立ってしまう恐れがある事も、忘れてはいけな

いと感じました。私自身、気づいていないだけで心の内に誰かを差別してしまう思いが渦巻いていると思います。イエス様も「悪い思いは人間の心から出てくる(マルコ 7:21)」と教えられており、その思いを見ないふりをする事は知らないうちに差別につながる事と思います。内側から出るその思いと向き合い、人を差別する、蔑ろにしてしまう選択をとらないように日ごろから気をつける事、そして今でも差別されている人々に、私は何が出来るのか、研修を終えた今改めて考え、これからの課題として忘れないように、学びを終わらせないようにしていきたいと思います。

世界の聖公会の動向

☆主教たちが2022年のランベス会議に向けて準備を開始

☆コンゴ聖公会の新首座主教

☆ジェンダーに基づく暴力を抑止するための青年たちによるキャンペーン

管区渉外主事

司祭 ポール・トルハースト

○主教たちが2022年のランベス会議に向けて準備を開始

来年に対面で実施されるランベス会議の準備の一環として、今後6か月間にわたり、一連の「主教対話」が開催される。ランベス会議を取り仕切るチーフ・エグゼクティブであるフィル・ジョージ氏は、このことを「喜び」と表現している。

これらのセッションには約500名の主教たちが登録されており、2022年に対面する前に、主教同士が出会い、会議のテーマに耳を傾ける重要な機会となっている。

7月6日にスタートした「主教対話」は、約20名の主教たちがオンライン会議ソフトを使って、グループごとにミーティングを行う。主教たちは、聖書の研究会に参加した後、Covid-19の大流行の影響や、それぞれの地域の問題について話し合いを重ねる。

オーストラリア聖公会ニューカッスル教区のピーター・スチュアート主教は、次のように述べている。「新旧の友人たちが集まったような雰囲気、すぐに会話が弾みました。私たちは、イエスの道を語る上で深い絆を共有していること、そして主教という務めにおいて同じ重責を担っていることをすぐに理解しました」

アングリカン・コミュニオンの現任主教は全員、この対話に参加するように招待されている。

○コンゴ聖公会の新首座主教

アルー教区主教のジョルジュ・ティトル・アンデ博士が、コンゴ聖公会の次期大主教および首座主教に選出された。師は7月に開催された総会で選出され、2022年1月にザカリー・マシマンゴ・カタンダ大主教の後任として就任する。

次期大主教は次のように述べた。「暴力、不安

定な経済状況、深刻な貧困に悩まされている国にあって、このコンゴ聖公会の次期大主教に私が選出されたことは、『驚くべき夢』でした。しかし、私たちの人生の究極の目的は、神に栄光をもたらし、神の世界へのミッションに参加することだと理解しています。このように大きな職務を引き受けることは、神への信仰と責任、そして神の民への配慮を伴うものです」

ティトル・アンデ博士は、英国のバーミンガム大学で博士号を取得。長年、神学大学の校長を務め、現在も神学を教えている。15年間アルー教区の主教を務め、全国の教会指導者の育成に携わってきた。

〇ジェンダーに基づく暴力を抑止するための青年たちによるキャンペーン

アングリカン・コミュニオンは、「ジェンダーに基づく暴力に反対する16日間キャンペーン」の30周年を記念して、ソーシャル・メディアによるビデオ・キャンペーンを開始した。世界中の青年たちによって投稿されたビデオを、11月25日から12月10日までの16日間に公開するため、アンゲリカ

ン・コミュニオン事務局がキャンペーンへの参加を呼びかけている。この「可視化—ジェンダーに基づく暴力に焦点を当てる」キャンペーンへのエントリーは10月31日まで受け付けられている。

アングリカン・コミュニオンのジェンダー正義を担当するプロジェクト・ディレクターであるマンディ・マーシャル氏は次のように述べた。「悲しいことに、ジェンダーに基づく暴力は、キャンペーン開始から30年経った今でも私たちの生活の中に存在しています。しかし、この問題に取り組むために、世界中で素晴らしい活動が行われています。若い聖職者や信徒たちの声や意見を聞いて、教会でGBV（ジェンダーに基づく暴力）を終わらせることを優先するよう、チャレンジする必要があります」

35歳以下の若い教会関係者を対象に、2分以内のビデオを募集している。採用されたビデオは、16日間のキャンペーン期間中にアングリカン・コミュニオン事務局によって公開される。キャンペーンの詳細や動画の投稿方法については、anglicancommunion.org/exposureを参照のこと。

新型コロナウイルス（COVID-19）に関連する 各教区の対応

北海道教区 原則として礼拝（公禱）を行なうが、各教会で判断

- 札幌キリスト教会（主教座聖堂）は「緊急事態宣言」期間中は公開の礼拝を休止中。礼拝の一部をオンライン配信。
- 一部の教会で「緊急事態宣言」期間中は公開の礼拝を休止。
- 教会での礼拝は主日・週日いずれも定時に、誰でも参加可能。
- 礼拝に関して不安や恐れがある信徒は自宅で礼拝を守ってもよい。

東北教区 礼拝（公禱）の再開

- 公開主日礼拝等は、10月から再開する見込み引続き十分な感染対策を取る。

- 葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。
- 福島県（まん延防止等重点措置いわき市のみで～9/30で解除見込）。
- 宮城県（まん延防止等重点措置～9/30）。
- 全県警戒は緩めないこと（第8信遵守のこと）。
- 延期していた宣教130周年プログラム「交換説教」は10/2より開始する。

北関東教区 礼拝（公禱）の再開または休止

- 各教会・礼拝堂で協議し、地域社会と共同体の状況により適切な対応を講じる。
- 葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。

東京教区 礼拝（公禱）再開または再休止

- 礼拝について、2021/6/24の主教教書で教区内の公禱一斉休止を解除。7/12緊急事態宣言再発令後、公禱の継続・再開・休止は各

教会・現場の判断に委ねる。7/23 現在、34 教会（含礼拝堂）中 11 教会で公禱を継続、23 教会で休止。

- ・葬儀および礼拝堂の公開などは、感染防止の対策の上、それぞれの教会・礼拝堂の状況にあわせて、実施可能。
- ・インターネットによる礼拝等の配信をおこなっている教会がある。

横浜教区 礼拝（公禱）の公開または公開 休止

- ・「礼拝指針」（更新・2021年版）の徹底。
- ・「新型コロナウイルス感染者発生時の教会対応ガイド」の順守。
- ・在籍外の教会、また教区を越えての礼拝出席は控える。
- ・ウイルスの感染拡大への対応として、それぞれの教会または地域の感染状況により、各教会で礼拝の公開休止の判断をする。

中部教区 礼拝（公禱）の一部休止

- ・主日及び週日の礼拝再開、休止については『礼拝再開に関するガイドライン』に基づき各教会で判断。
- ・緊急事態宣言下のエリアにある教会は原則礼拝等休止。

京都教区 各教会で判断

- ・緊急事態宣言が発出された地域が拡大している。主日礼拝の方法は各教会で判断（休止の教会もある）。引き続き感染防止策を継続

して行なう。

大阪教区 礼拝（公禱）の休止

- ・9/30 まで、主日礼拝・聖餐式の公開を中止。
- ・その他の諸集会も公開を中止。
- ・動画配信などの利用をさらに進める。

神戸教区 礼拝（公禱）の一部休止

- ・教区の自粛基準に基づき、各教会委員会で協議し、自粛の場合は教区主教に相談している。
- ・主日礼拝は聖餐式（一種陪餐または前部）または、み言葉の礼拝を行なっている。
- ・緊急事態宣言が発令されている県下の教会では、礼拝を自粛している。また、それ以外の教会でも教会委員会に諮り、自主的に礼拝を自粛している教会もある。

九州教区 礼拝（公禱）の一部休止

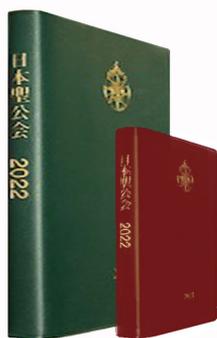
- ・無理に主日礼拝に来ることをお勧めしない（体調の悪い方・公共の交通機関で教会に来られる方など）。

沖縄教区 礼拝（公禱）の休止

- ・緊急事態宣言発令中の礼拝を休止。9月30日まで。

- * 毎月1回、情報更新をいたします。管区のHPにも掲載（英語版もご用意）しておりますので、ご活用ください。

（2021年9月27日現在）



☆日本聖公会
管区事務所責任編集

『聖公会手帳』 2022

各教区事務所・教務所の協力のもとに完成！

10月中旬に発行

大判型 2,200円

ポケット版 1,200円

（税込）

ご予約はお早めにバイブルハウス
南青山またはお近くの書店まで！

- ✿ 背文字に金箔で「日本聖公会」を入れました。
- ✿ 読者アンケートから利用者の声を誌面に反映。
- ✿ 2022年度教会暦・日課表を完全収録。
- ✿ 祈りのページを大幅に増補。

被造物保護のための共同メッセージ

2021年9月1日

エキュメニカル総主教	バルトロメオ
ローマ教皇	フランシスコ
カンタベリー大主教	ジャスティン

この1年以上にわたり、貧しい人も裕福な人も、弱い人も強い人も含めて私たち皆が、世界的なパンデミックの壊滅的な影響を経験してきました。ある人はより保護され、ある人はより脆弱でしたが、感染が急速に拡大し、安全を確保するための努力について互いに依存していました。私たちは、この世界的な大災害に直面し、全員が安全になるまで誰も安全ではないこと、私たちの行動が実際に互いに影響し合うこと、そして今日の行動が明日の出来事に影響することを実感しました。

これらの教訓は新しいものではありませんが、私たちは新たにそれらに直面しなければなりません。この瞬間を無駄にしないようにしましょう。私たちは、将来の世代にどのような世界を残したいのかを決めなければなりません。神は命じます。「あなたは命を選びなさい。そうすれば、あなたもあなたの子孫も生きる。」(申命記 30:19b)。私たちは今までとは違う生き方を選択しなければなりません。

9月は多くのキリスト者によって「被造物の期節」として祝われ、神の被造物のために祈り、配慮する機会となっています。11月にグラスゴーで開催される世界のリーダーたちによる地球の未来についての討議に向けて、その指導者たちのために祈り、私たち皆がどのような選択をしなければならないかを考えます。したがって、私たちは教会の指導者として、信念や世界観にかかわらず、すべての人に、地球と貧しい人々の叫びに耳を傾け、自分の行動を吟味し、神が私たちに与えられた地球のために意味のある犠牲を誓う努力をすることを呼びかけます。

サステナビリティ (持続可能であること) の重要性

私たちの共通の伝統であるキリスト教では、聖書と聖人が、現在の現実と今見えているものよりも大きな約束の、両方を理解するために必要な明確な視点を提供しています。スチュワードシップの概念、すなわち、神から与えられた財産に対する個人と集団的な責任は、社会、経済、環境の持続可能性を実現するための重要な出発点となります。新約聖書では、金持ちでありながら愚かな男が、自分の有限の終わりを忘れて穀物を大量に蓄えたことが記されています(ルカ 12:13-21)。また、放蕩息子が早くに遺産を手に入れたにもかかわらず、それを浪費して飢える羽目になったことを知っています(ルカ 15:11-32)。私たちは、共通の家が嵐に耐えられるように岩の上に建てるのではなく、砂の上に建てるという短期的で一見安価な選択肢を採用しないように注意されています(マタイ 7:24-27)。これらの物語は、私たちがより広い視野を持ち、人類という大きな物語の中で

自分の居場所を認識するように促しています。

しかし、私たちは逆の方向に進んでしまいました。将来の世代を犠牲にして、自分たちの利益を最優先してきたのです。私たちの富に集中することで、自然の恵みを含む長期的な資産が目先の利益のために枯渇することになります。テクノロジーは進歩のための新たな可能性を広げましたが、同時に無制限に富を蓄積することも可能になり、多くの人は、他の人々や地球の限界に対する配慮を欠いた行動をとっています。自然は回復力がある一方で、繊細です。私たちはすでに、自然を守り抜くことを拒否した結果を目の当たりにしています（創世記 2:15）。今、この瞬間、私たちには悔い改め、覚悟を決めて逆方向に向かうチャンスです。私たちは、生き方、働き方、お金の使い方において、利己的な利益ではなく、寛大さと公平さを追求しなければなりません。

貧困に苦しむ人々への影響

現在の気候危機は、私たちがどのような人間であり、神の被造物をどのように見て扱っているかを雄弁に物語っています。私たちは厳しい正義の前に立っています。生物多様性の損失、環境悪化、気候変動は、私たちの行動の必然的な結果であり、私たちは地球が耐えられる以上の資源を貪欲に消費してきたのです。しかし、私たちは深刻な不公平にも直面しています。それは、これらの侵害によって最も悲惨な結果を背負っているのは、地球上で最も貧しい人々であり、その原因について最も責任を負っていない人々なのです。私たちは、創造を喜び、すべての人を神の似姿に創造する正義の神に仕えています。同時に、貧しい人々の叫びにも耳を傾けています。このような壊滅的な不正を目の当たりにしたとき、苦悩をもって対応することが、私たちの中に生まれながらにして求められているのです。

今日、私たちはその代償を払っています。ここ数ヶ月の異常気象や自然災害は、気候変動が将来の課題であるだけでなく、生存に関わる緊急の問題であることを、大きな力と大きな人的コストをもって私たちに改めて示しています。広範囲にわたる洪水、火事、干ばつが大陸全体を脅かしています。海面が上昇し、コミュニティ全体が移転を余儀なくされ、サイクロンは地域全体に壊滅的な被害を与え、生活と人生を台無しにしています。水が不足し、食糧供給が不安定になることで、何百万人もの人々が紛争や避難を余儀なくされています。小規模な農業を営んでいる地域では、すでにその傾向が見られます。今日では、高度なインフラであっても、異常な破壊を完全に防ぐことができないのが先進国の現状です。

明日はもっと悪くなるかもしれません。今、私たちが「神と共に働く仲間」（創世記 2:4-7）として、この世界を維持する責任を負わなければ、今日の子どもたちや若者たちは、壊滅的な結果に直面することになるでしょう。私たちは、自分たちの未来が脅かされていることを理解している若者たちの声をよく耳にします。その世代のためにも、目先の利益だけでなく、将来の利益を考え、食事、旅行、支出、投資、生活の仕方を変えていく選択をしなければなりません。私たちは、自分たちの世代が犯した罪を悔い改めます。私たちは、世界中の若い姉妹や兄弟とともに、神の約束にますます応えていく未来のために、献身的に祈り、行動します。

連携の必要性

今回のパンデミックで、私たちは自分たちがいかに脆弱であるかを学びました。社会システムは崩壊し、すべてをコントロールすることはできないことがわかりました。私たちは、これまでのお金の使い方や社会の仕組みが、すべての人に利益をもたらしていないことを認めなければなりません。私たちは、健康、環境、食糧、経済、社会など、すべてが深く関連している一連の危機にさらされ、弱さと不安を感じています。

これらの危機は、私たちに選択を迫っています。私たちは、近視眼的に利益を追求して危機に対処するか、それともこれを転換と変革の機会と捉えるか、どちらを選択するかという特異な立場にあります。人類を家族のように考え、共通の利益に基づいた未来に向けて協力し合うことができれば、私たちはまったく違った世界に住むことができるでしょう。誰もが幸せになれる人生のビジョンを共有することができます。私たちは共に、愛と正義と憐れみをもった行動を選択することができます。最も弱い立場にある人々を中心に、より公平で充実した社会に向けて共に歩んでいきましょう。

しかし、そのためには変化が必要です。私たち一人一人が自分の資源の使い方に責任を持たなければなりません。この道を進むには、すべての教会が被造物への配慮に向けて、これまで以上に緊密な協力関係を築く必要があります。私たちは、コミュニティ、教会、都市、そして国家として、ルートを変え、人々の間にある伝統的な障壁を取り払い、資源の奪い合いをやめ、協力し合うための新しい方法を見つけなければなりません。

行政のトップ、企業の経営、雇用主、資金を運用する人など、より広い範囲で責任を担う人々に対して、次のように提言します。「人間を中心とした利益を選択し、すべての人の未来を守るために短期的な犠牲を払い、公正で持続可能な経済へ移行するためのリーダーになってください。」「多く与えられた者には、多く求められる」(ルカ 12:48b)。

環境の持続可能性の緊急性、持続的な貧困への影響、そして世界的な協力の重要性について、私たち3人が一緒に考えなければならぬと感じたのは今回が初めてです。私たちは共に、地域社会を代表して、すべてのキリスト者、信徒、善意の人々の心に訴えます。地球と人々の未来を決めるためにグラスゴーに集うリーダーたちのために祈ります。もう一度、聖句を思い起こします。「あなたは命を選びなさい。そうすれば、あなたもあなたの子孫も生きる。」(申命記 30:19b)。命を選択するということは、犠牲を払い、自制心を働かせることです。

誰でも、どこにいても、私たち皆が、気候変動と環境悪化という前例のない脅威への集団的な対応を変えるために、役割を果たすことができるのです。

神の被造物への配慮は、献身的な応答を必要とする霊的な使命です。今が正念場です。子どもたちの未来と、私たちの共通の家の未来は、この取り組みにかかっているのです。



社会事業の日

2021
10/24

喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい
(ローマ12:15、聖書協会共同訳)

 日本聖公会

□日本聖公会『管区事務所だより』購読のお願いと購読料について

日本聖公会の宣教理念と管区・各教区の実践活動、また世界各国の聖公会の動向を毎号の誌面での確にお伝えする広報誌『管区事務所だより』の年間購読料について、通信費・紙代・インク代の値上がりなど、などさまざまな事由のため、2020年より購読料改訂を実施させていただくこととなりました。年間の購読料金は、2020年2月以降のお申込みから、個人

1,200円、1か所につき2部以上ご希望の場合は1部1,000円といたします。ご不明な点等ございましたら、管区事務所宛に電話にてお問い合わせください。余儀ない事情をご理解いただき、今後とも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。

管区事務所 電話：03-5228-3171

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。